

キーワード

難聴

シスプラチン

薬剤性難聴

Hearing loss



薬剤性難聴モデル

シスプラチンの副作用による難聴モデルを用い、ABR（聴性脳幹反応）検査によって、対象薬の難聴に対する抑制効果を検討いたします。

試験方法

使用動物：マウス CBA/J

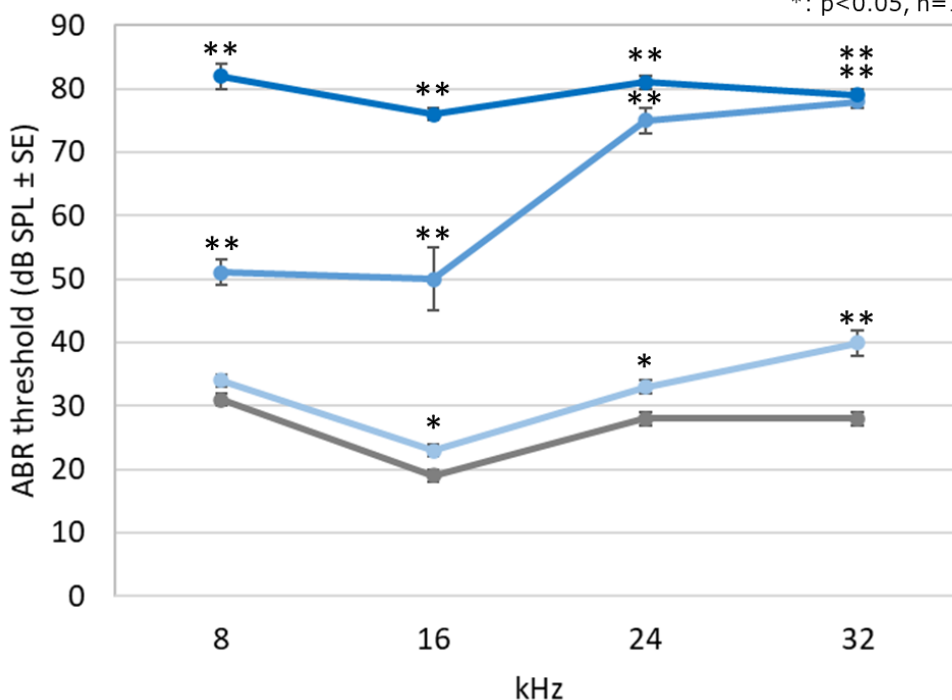
誘発方法：シスプラチンの反復投与（腹腔内投与）

日程(例)：【4日間連日のシスプラチン投与+10日間の休薬期間】を3回
（シスプラチンの投与は調整可能）

評価・結果

評価方法：ABR検査（シスプラチン投与前、休薬1回目、2回目、3回目）

ABR音圧閾値の推移



** : Wilcoxonの符号付順位検定、vs Pre, $p < 0.01$, $n = 9-12$.
* : $p < 0.05$, $n = 12$.

結果

シスプラチンの投与により、
ABR音圧閾値の上昇が認められた。